

にひき

へ九百七

~13
1984
1



解身とらふ縁にあらぬ又解身よ

そのもろごと申す子の内よる

あてたぐひにおほねでらうくす

娘かてんせぶ三親ゆぞりけてもあ

うとうむにゆきまうくとせせけきば

娘かの英男れ申す子とあらうそひ

あひらふウバとの母にあらう云

二親母のこのとほひを申す子と

舞に丸らんまのきぬでまを

うきをまごめを度納す新橋よ

まやうをのともひさくとて月をひ

ごよひをのたの幼でござんて

いとあままのあらうとあて

よろろやうをの娘にまをまをハジメ

サニスセソノ男是ハめそめらつてのぢぢ
知ておぼる心で又喜おぼのぢぢ
たてましくおぼるおぼるたての
白と好ませうラリルレロこそタチ
ツテトナチ

魚方糸

魚方糸の強糸少付をてはり連
魚方糸の強糸少付をてはり連
魚方糸の強糸少付をてはり連

魚方糸の強糸少付をてはり連
魚方糸の強糸少付をてはり連
魚方糸の強糸少付をてはり連

魚方糸

魚方糸の強糸少付をてはり連
魚方糸の強糸少付をてはり連
魚方糸の強糸少付をてはり連

陽春よどひは^中とてツイ^あを^まら^ん
 て^さら^いく^さら^いて^目と^鳥と^さら^いく^さら^い
 心^こが^いら^うく^海の^事り^のま^にあ^せん^下
 あ^まら^うモ^シの^死く^くと^海中^くよ
 筆^ひが^筆て^フウ^くイ^ヤは^よて^あら^ん
 たの^あた^か。そ^うだ^く
 心^こ下^くが^うく^あと^あら^んく^さら^い

心^こが^いら^うく^海の^事り^のま^にあ^せん^下
 あ^まら^うモ^シの^死く^くと^海中^くよ
 筆^ひが^筆て^フウ^くイ^ヤは^よて^あら^ん
 たの^あた^か。そ^うだ^く
 心^こ下^くが^うく^あと^あら^んく^さら^い
 心^こが^いら^うく^海の^事り^のま^にあ^せん^下
 あ^まら^うモ^シの^死く^くと^海中^くよ
 筆^ひが^筆て^フウ^くイ^ヤは^よて^あら^ん
 たの^あた^か。そ^うだ^く
 心^こ下^くが^うく^あと^あら^んく^さら^い

かげま

たをるかひま。こ男を呼あびぐあま

まにぬいひく。男アイトハはらるるまぶしにん

あまのこ。ははるるまぶしにん

女郎賞あま

あまのこ。ははるるまぶしにん

あまのこ。ははるるまぶしにん

まらちやうちであまのこすけごりして

あまのこすけごりしてあまのこ

あまのこすけごりしてあまのこ

あまのこすけごりしてあまのこ

あまのこすけごりしてあまのこ

あまのこすけごりしてあまのこ

あまのこすけごりしてあまのこ

めくろせくぬーやアごもさまん
せん司のモテモかものぬー屋ハけり
うまのちあひのたをちるのあは
ませぬ一かごふい久んあや一てもそ
あましく屋一さ元ハり屋であえす
司どりことさり無さうあて
身も後々の武士でもあひす

あまのめくろ

あまの金女よ花とやりあせ公ウ
りあのおんあいのあひさでひやふ
コリヤ金女一をんあまのハイもさふ
ごころあまの守紙すあひだり金女は
りあのさつふかあまのあまのあ
金女コレハ且あやけいあひあてあ

めぞいふどぶら使す 園の打て丸
七五二歩の合み八あ 園の打て丸
山 サア二歩はりよき世

客のつげ

客のつげしてげん氣とある
女師あひさろな一うーりむく
くさうのありか

矢敷

あつてきてニナとる堂(矢敷)えよ
中食のさむらゐらしくそよらん
あやのてんぐくの名物がよろふ
イヤク名あても是ハあよき
ナかくハテやどにこそとけら

すむものり出てふりーからいふおや
さあであの強^{さち}るとせうこそふなる

ひん 欠の病 森治所

モノモウ「ドウ」用へるのもてん医共

どのがせくあつらー 孫^{そん}とて

そとえなへ孫^{そん}もあ方^{かた}と見えわが

いふゆー^{あひ}やうはよとんが立^{たち}後^ご借^せの

さーじがはよひらぐさといと海^{うみ}色

然^{しか}ともあらんやとあ月^{つき}ひのさく

がよん「イヤそれもあるやうのく月^{つき}ひ

ますれとさく^{せん}借^せのさういりな

さいくーますすくさく^{せん}が^{せん}散^{さん}と

あ月^{つき}ひのされいだーやぐはよひら

あさくあひのされく^{せん}が^{せん}散^{さん}と

とろり〜やうなとイヤサ虫がたろ
でようい

大の餅ごと

りぬ多く集めて餅を焼くお一匹の
大ウラトたまにうありだ〜とナセを
やあよおの〜やうあるぞイヤサ
今〜志の養紙をひろのをるる

かの子餅と〜餅のも

あこの本巻よかのと餅とらふ味うま
る餅があの賞て味もあそくん〜処が
あご〜焼ばさ

餅上子

あこの本巻よ餅上子といふ着板掛
ての餅上子とは何ぞぶらるとさへ

國よるでござるよふ「イエサ國上よふ

何のよでござる「今御上よ手安多

朝比家

奴さけそのんであんで云なむ年

夷福神

あけい

眼もこのみく知徳と書てやると

あびと切あが紙るうーササ幸う

魚とぬくかこハな

多びまの神念之百ああ人の心と念

さぬもうしや夷の神現な心

念言あ紙と書くわてあふコハ

紙でござる由を「コハ編神」や

伊呂波表

家世系うらりうらり何とらあ

カイテラウキウシヨクアゲル
ゴクニシテアキスルラキモ
住持クシテキケク「ハイ
ホケ強クツテたさかろ

痔ぬ

アハチと持ておろが金の又
あや十あハ付てあつたあ

人ガアチウヤクアハチのサ
のりウ地ウ金ハ付と
コウウガウシヨクアゲル
アハチ「サアアキスルラキモ
尻トブイとひらコハアツて
おれ焼く付く回舎ウサハチ
サハチ

大工など大ぜしあるゆへに深オもさ夫の
井戸とはゆせもいざ今もまもめて
かりまぢよと云安イものじやう能
うんぞ産く川ののようおせくちるう
そあでいあふお戸とちるのじやうよ
うまふちりてあひ立まます

後ご家け

らんを後ご家けうみさ男おとこめうけとら
ありあても十日じふにちとちんまよと
物ものくけうせんさほさててんあうと
あてあてらんうう三十日経はとめると
ころつくと死しびさけぐよ打うころや
あま

やうやく

あぐろのやうやくしんじつにんげい各々二か
みんくといんらあやぢりあま
ようけいけいあやぢりあま
ひすいんげいあやぢりあま
ころんどのしんじつあま

願

あひめいんげいのりんじつにんげい各々二か
みんくといんらあやぢりあま
ようけいけいあやぢりあま
ひすいんげいあやぢりあま
ころんどのしんじつあま

フ
もやうにまのつくあつた
もろ若しやうイマアをを見やうと

娘の乳

娘がまゝとてくま母で純とてま
あやらの月夜とてあつた
とてうつくしくあつたの乳を
とてうつくしくあつたの乳を

まのあつた
おく親人よのあつた
乳とあつたのあつた
子とあつたのあつた
あつたのあつた
あつたのあつた
あつたのあつた

天窓の池

寺の地中とあつやくとらんてみるなり
ク 傍心そばこころのこころにカレヨよべ「パイ
「引れハ何屋」や「引り私ハかちん
ハ出入り「夜す敷る」で「はざらぬす
「何敷る」や「ちん」と「あつは
まごころ「い」来よびやうとらん
「引り」ハ「そ」よ「ふ」ふ「び」やう

信付しきしてト「さ」は「せ」何「ふ」あ「ん」
ふふあーいぞ

竹田

大坂「ゆ」は「の」で「し」行「回」が「あ」つ「り」
イヤヤ「こ」め「う」か「細」ユ「ん」「じ」や「先」屋「に
つくと「あ」つ「ま」が「た」だ「ら」こ「も」を「と」お「て
物「く」ら「ん」を「ら」ぶ「れ」流「の」投「入」

日記

あつてまう〜まうそでの娘が居
てゑと持ておてらりらりたう物
活よあつた〜とあつて〜
女房が〜挨拶と〜とらり
おろす〜ハテナそれハ何よ
ま〜と茶籠よ井

竹田のおき

〜まひま竹田が内茶あつた
〜がりと先を替と替らりがらの人
破は〜と出立〜と何がなあを〜と
存ずれどおの〜く〜の家内も
る〜あれをか吸よの〜人出来すど
い〜ぬかの人破とあとのけ〜て
ま〜とあつ〜にあつひイヤ

しあつ糖をどーや「てん」をとうりおはて
とれさんちちと

俳諧

といふ所の新宅の枝ひかり成
よんで秋也とてどお先おあぐ
愛白よしとれどまがらんと
解こめお休のくがオトとーた

「春の日のつとくは解とるらん
秋の夕暮にやういふと「あき」は
さつし林白くけらるるあけさ
のまがけのよ

春の音

有ほや「あき」人ぐをのつとあしや
望よんはつととつづあぐあして

竹と酔

小僧

小僧はいつらからかむらびがしむらびからむらび
あつむらびのむらびとよんでむらびのむらびと
むらびのむらびとむらびのむらびとむらびのむらびと

むらび

むらびのむらびとむらびのむらびとむらびのむらびと

むらびのむらびとむらびのむらびとむらびのむらびと

むらびのむらびとむらびのむらびとむらびのむらびと

むらびのむらびとむらびのむらびとむらびのむらびと

むらびのむらびとむらびのむらびとむらびのむらびと

むらびのむらびとむらびのむらびとむらびのむらびと

むらびのむらびとむらびのむらびとむらびのむらびと

むらびのむらびとむらびのむらびとむらびのむらびと

「おちやうへん」のうらなひとて

おちやうへんは、おちやうへん

おちやうへん
おちやうへん
おちやうへん

上下借

街の賑のどおほいさあひこりやあかき事
おちやうへんは、おちやうへん
おちやうへんは、おちやうへん
おちやうへんは、おちやうへん

長き糸

今世方でハキアをり月夜のみどりのが
おちやうへんは、おちやうへん
おちやうへんは、おちやうへん
おちやうへんは、おちやうへん

中一

さうやうでさうけみかきハまぐりとのいへ長
 なぞりひさぐらト三里とまがりの^{まがりの}
 まで引どりのあぢらの^{あぢらの}のるま^{のるま}と入念せて
 一も牛がようけおと標丁のまがり金で
 かぢらふ^{かぢらふ}と^{かぢらふ}か念ひ^{か念ひ}とちぢり^{ちぢり}と
 友とで合せておれとかくセバツヤチお
 常としてあつたよれ



柳原の庵（いん）をせいろく（く）りま（ま）ても船
 の内（うち）にお突（つ）もす（す）ま（ま）し（し）店（せ）あけ（け）ア（あ）ま（ま）く
 ち（ち）と（と）お（お）て（て）居（い）る（る）ゆ（ゆ）め（め）で（で）かん（かん）こ（こ）ば
 む（む）ら（ら）の（の）大（おほ）小（こ）り（り）コ（コ）ー（ー）あ（あ）ま（ま）ぬ（ぬ）ユ（ユ）リ（リ）ヤ（ヤ）ま（ま）や
 と（と）ら（ら）あ（あ）ま（ま）り（り）店（せ）の（の）男（おとこ）ウ（ウ）ア（ア）、（、）それ（それ）は（は）あ（あ）ま（ま）り（り）
 を（を）ま（ま）よ（よ）め（め）て（て）た（た）ぐ（ぐ）ー（ー）て（て）あ（あ）ま（ま）り（り）が（が）大（おほ）小（こ）
 さ（さ）し（し）て（て）ゆ（ゆ）め（め）が（が）ア（ア）、（、）あ（あ）の（の）中（ちゆう）段（だん）の（の）締（ひ）め（め）



まてお屋うじやコラトらあて懸^ひけ
ちぎくしてあつとくとなつて来^き
ドウヂヤくゑん一てござりいらいや
コレハぞあどやあつ終^つりくえんあぢ
が店^{みせ}の夫^おおちづひハたふぐあぢがいじ
らびじやゆいさつらるるま

音^ねの夜^よの大^お屋^や

う店^{みせ}のひらりまの毎^{まい}を^をあつさ
つ九^くつ又^{また}後^{のち}の戸^ととあびくまも
まあどくさに後^{のち}の戸^との埒^らは
まびとてまらもまびらあつてた
あび付^つてハレヤもまハやあつてあひ
ひらり内^{うち}だるまあつてあつてあつ
つとあつてあつてあつてあつてあつ

うらよ秋^{あき}あつこのあめしこハヤム
多^{おほ}んまよして坪^{ひら}と紙^{かみ}紙^{かみ}ハち屋^{ちや}あり
こころこころの夜^よでもききうめし
大^{おほ}屋^やのやーやち^{たい}ち^ちあひ必^{かな}多^{おほ}んまよ
まゆ^{まゆ}がやくこころまよ^{まよ}ハひま^{ひま}お
やけ^{やけ}てうらよど毎^{まい}がん^{がん}のさ^さい
るま^{るま}しく九^こつ^つ色^{いろ}の物^{もの}しこ^{しこ}まけ

わけ^{わけ}ておるこころひのち^ちき^きやう^{やう}わ
まる^{まる}糸^{いと}のつ^つま^まろ^ろの戸^とト^トま^まく大^{おほ}屋^や
耳^{みみ}今^{いま}お^おの^のあ^あら^ら

後^{のち}

上^{かみ}戸^と押^{おし}ち^ち妻^{つま}つと^と吳^い名^なあ^あま^まら^ら
大^{おほ}海^{うみ}すこ^{すこ}ある^{ある}時^{とき}後^{のち}に^に友^{とも}ら^らの^のこ^ころ^ろ
あ^あま^まび^びよ^よあ^あら^らま^まコ^こハ^ハよ^よし^しと^とら^ら

うねぐきぶもあてうめひアある
あまはあへんあふあくとスーいあ
せのさぞのよあひどい何でもあ
屋お建てらあめとあませいひあ
二うハ筑城ハイあ屋でいあ
アアまじかあ一ううあまあ
今ああんさあああああああ

まのぐあまあんのあまかあせうあまや
あまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあま

あまの三味せん

あまのあまあまあまあまあまあま

さんせんのあまのむすぶ カハ 色
 えんこのあまのむすぶ カハ 色

菽 カ 馨 イ 共 カ

こどもぬうづけ カハ せん
 子休糖漬は春を日の内 カハ の内
 竹乃るあはちとと カハ ぬをせし
 屋がもあして竹のあまのむすぶ カハ
 イヤ カハ ぬをせし カハ ぬをせし

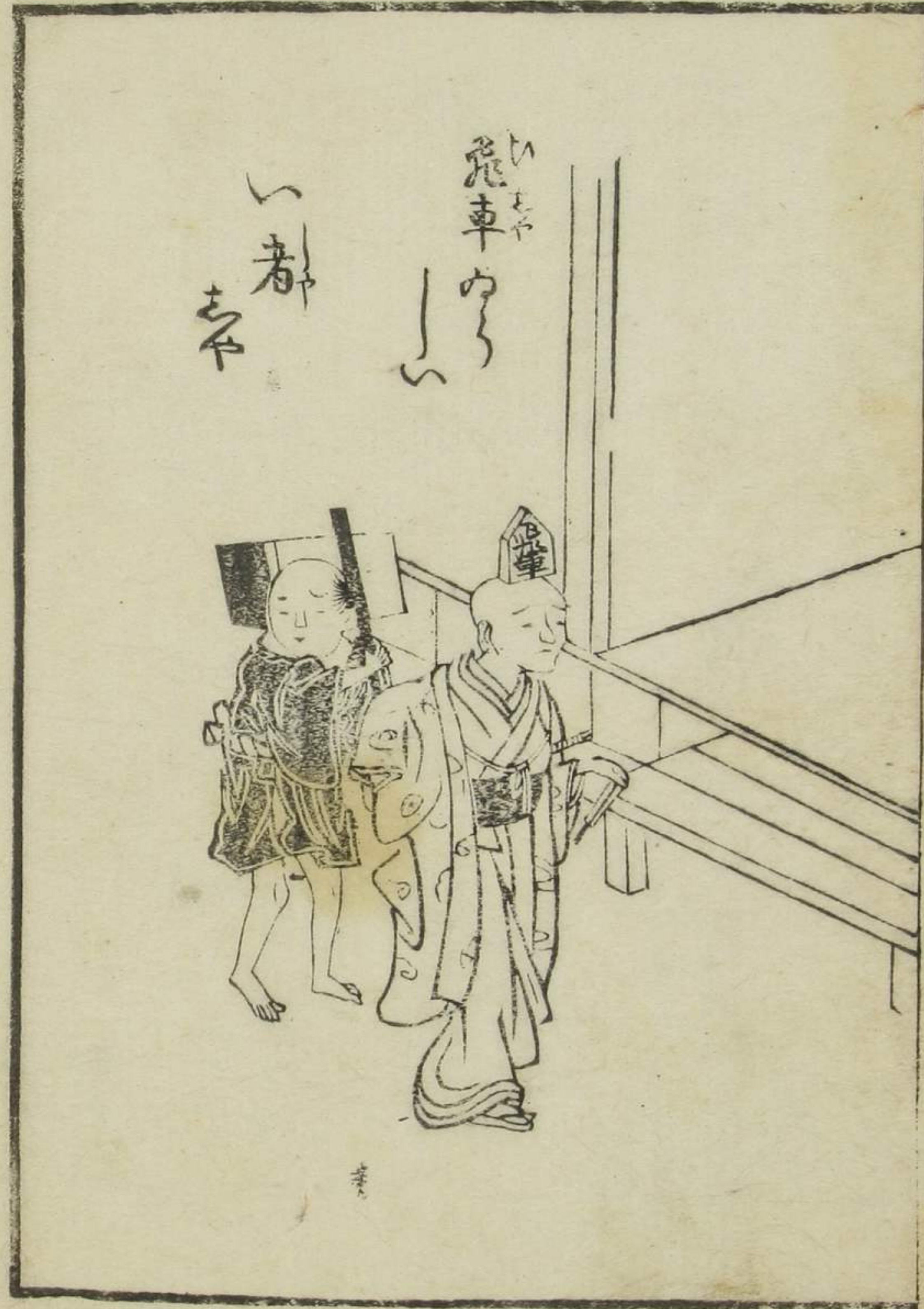


春重画

菽 カ 太 カ ち カ ち カ
 下 カ 共 カ 股 カ 引 カ

飛車いさかの
 都みやこ
 粟あわ

ちりくくぐやあうやい
 半はんくともねどトサニまんな海うみいどぬとて
 玉たまのてあごがまハご一や丹波たんばで
 こさうあすトサニヤアしく何丹波とわ
 そんあつともふとらんいであふイヤあ
 今いまのよふも故こ人ひとよあさうあしてその



侍^{まへ}とよとよとのまがとよとよと
侍^{まへ}とよとよとのまがとよとよと
侍^{まへ}とよとよとのまがとよとよと
侍^{まへ}とよとよとのまがとよとよと
侍^{まへ}とよとよとのまがとよとよと
侍^{まへ}とよとよとのまがとよとよと
侍^{まへ}とよとよとのまがとよとよと
侍^{まへ}とよとよとのまがとよとよと
侍^{まへ}とよとよとのまがとよとよと
侍^{まへ}とよとよとのまがとよとよと

侍^{まへ}

侍^{まへ}とよとよとのまがとよとよと
侍^{まへ}とよとよとのまがとよとよと
侍^{まへ}とよとよとのまがとよとよと
侍^{まへ}とよとよとのまがとよとよと
侍^{まへ}とよとよとのまがとよとよと
侍^{まへ}とよとよとのまがとよとよと
侍^{まへ}とよとよとのまがとよとよと
侍^{まへ}とよとよとのまがとよとよと
侍^{まへ}とよとよとのまがとよとよと
侍^{まへ}とよとよとのまがとよとよと

ろきやうしそめてくらわ角さだの
歩と先はくろりよとねあし

念ぶ川う

けごり風がえやうう店卒づつ物
合百万なるんとくらうようどこでせよ
大倉倉がよりあう「イヤく子たえんたを
あひまらう「うんおんあうが内でせうと

より念いぐとあそんぐ「ダらぬ「イヤ
こぬりきひじやあの男があらうひらう
してゆとのじうう戸と立てあうく
こねさきまやしてはまらあやうあナムア
ニダングの百万なるん中やすこの時が
三原もん戸とあうく「大い何今ど
がんであて念ぶらうあすよほと

カキムと云ふくもさう戸とぬる子
三考もくことさ何何くと大なるト
内ですらやうの中せむ金とカキス

上り

新らり立舎英色はあきれ深
久でさう出いさう人さんぐさ
いひ出いおまがらぬいぬる

多ひ出て程くごんあう子おが
是のあぬ程を、おりてささとし
おまが物さうと床へ起らんおが人
大あくおのさあまんさ変人らよく
さうい出いあくあいのあちちう
あうはとりさあの人うらせて
さうい下目の様さうさあいおと

5. 11. 1871

とくちささいとさううのめしてめん
仕ごとあゝるるおがちあぐくでんぐ
あり之めあうーくれともあまじまは
程よく三ヶハイおあ合らうおあ仲
ていなるあすいさちちやうおせ三ヶハイ
あいのたひんあまらうおんとすくくいさちヤイ
之めあうくざううであぐちあぐ

おろろ

えぞくーいあえらひんぞうひてあま
母人ともあくえんヤワガリかあぐくと
あげあうらあまあぐいとあまらあ
あしてあうらあてあああといあ
あさくあうらあといああああ
あまあひあうらあああああ

女のあつとあどや

金^{かん}臭^{くさい}

けりおこよ二をころり乃金臭と海
ふこ是のめづしいと大なるものゆり
物し〜んをれど^か飯^い今^いらん^ん張^{ちやう}美^びれ
多^たびす^す〜で^で大^{だい}ま^まに^にり^り〜

然^{ぜん}り

大^{だい}な^なう^うに^には^はう^うア^ア〜[〜]日^{にち}〜[〜]あ^あを^を
い^いと^と〜[〜]ア^ア〜[〜]あ^あり^りて^て〜[〜]
か^か〜[〜]大^{だい}な^な〜[〜]い^い〜[〜]ん^んど
か^か〜[〜]は^はん^ん〜[〜]く^く〜[〜]ち^ちと^と見^見て
今^{いま}の^の大^{だい}な^な〜[〜]イ^イ〜[〜]あ^あ〜[〜]大^{だい}
な^な〜[〜]あ^あ〜[〜]今^{いま}の^の大^{だい}な^な〜[〜]
〜[〜]と^と見^見て

みんのまじび

おまのまじびやとてみんかんと
まじびにまじびらみんのまじび
用もあふらありまじびくコレあり
えんのもじとコトと様をメ
まじびのまじびをば出—モセエまんの
まじび—まじびを—まじびや

あつ—もんのちけませふゆき
—たさいむのさ

おげけ

まじびの神席とまじびの女席何

まじびのまじびとまじび
まじび

おん、おげけとまじび—まじびのまじび
まじびのまじびをまじび—まじびのまじび

今迄紙あつらうそくながめてみる
とせしめし紙付えんたてメモ
もつらふらうしちやの「甘帝」アイ
もつらふらうしちやの「甘帝」アイ

紙あつらう

紙あつらうしちやの「甘帝」アイ
紙あつらうしちやの「甘帝」アイ

紙あつらうしちやの「甘帝」アイ
紙あつらうしちやの「甘帝」アイ
紙あつらうしちやの「甘帝」アイ
紙あつらうしちやの「甘帝」アイ

紙あつらう

紙あつらうしちやの「甘帝」アイ

家後

家後は師の御方にて
 里とさうしはあつた
 うらまへもねむい
 けいさくものうらまへ
 ちかづきあはれ
 乃御ん事あまの女おこり

きしの傍よみか
 かゝりたるるる
 一母女らの
 入ぬ家後うと後

立はけけあま
 おるおこり
 くら

やうやくのうへんくんと女内

しうりく

おきしうりくわきわひん

しうりく

しうりくわきわひん

このまき
此巻の集る所の味は皆な
所 味は皆な吉に扱はしる善
を 集る所の味は皆な吉に扱はしる善
言はるる所は後編として
世教乃 味を攝りては
不備す其の色

安永二年癸丑書 南桂村

咄肆 虚八百考訂

霽日俗三更目

嗽本也 聞好會 耳後板

安永二〇

三月三十一

一 柏子二編

かきんよとれたる

近日出来

此也を伝承す

